

平成 27 年 2 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 27 年度第 2 回

#### 認知症対策の話

先日、中斎塾フォーラムの法人会員をして戴いていた会社を訪ねました。以前、その会社に伺った時に認知症予防の対策を話したことがありまして、私の顔をみるなり、良い話を前回聞かせて貰ったと興奮しておられました。男性の会長さんは「か・き・く・け・こ」に、女性の社長さんはグー・チョキ・パー体操に興味を覚えたということでした。

グー・チョキ・パー体操というのは、後出しじゃんけんです。勝つ動きは小さい時から刷り込まれているのでスムーズに出来ますが、負けを出すのは一瞬頭がこんがらがってしまつて結構難しいものです。私は家で家内とやっていますが、自然と笑いが出て来ますから夫婦和合と、頭の活性化が図れて一石二鳥です。

「か・き・く・け・こ」は若さを保つ秘訣、感動・興味・工夫・健康・恋心です。京都大学の先生の資料では、「こ」は「恋人を持つ」と書いておられましたが、それはなかなか難しいので私は「恋心」とお伝えしています。この中で一番の根っこは恋心です。「か・き・く・け」までは気にしないで良いでしょう。恋心を持てば、他の「か・き・く・け」を実行するようになるからです。

このように人さまにお話したことがどんどん広がったり、凝縮されたりして、勝手に一人歩きを始めているのだなと感じました。

#### トラブルはチャンス

では、恒例の質問に参りましょう。

- 昨日一日、嘘をつかなかった方
- 昨日一日、良い日だったなと思う方

小此木さんは手が挙がりませんでした。良い事・悪い事を天秤にかけないで、何か良い事はなかったでしょうか？

(小此木会員)「仕事上でトラブルがありました。プラス思考で考えれば良いと思いますが・・・」

プラス思考で考えれば…と前提条件を付けると、すでに天秤にかけているのです。トラ

ブルはチャンスです。具体的な話をいくつか申し上げます。

私は28歳でシムックス（利根警備保障）を創業しました。創業して間もなく、お客様の三洋電機さんで大きな事故がありました。守衛さんが亡くなるという事故でした。その時はプラスもマイナスも考えずに直ぐに駆けつけて、三洋電機さんの責任者の方に「当社の社員が関係している事故なので私が全責任をとります。全て任せて下さい」と言って、全部任せて戴き後始末をしました。後で気が付くと、それをきっかけにして三洋電機さんと非常に親密な関係が出来て、仕事が増えました。

大きな事件・事故・トラブルがあると、それをきっかけにして当社は成長・発展するというのを何度も繰り返しています。昨年と今年も、放っておくと会社が潰れるかもしれないような事件・事故に続けて見舞われました。そういう事件や事故に慣れてはいけませんが、起きてしまうのですね。大きな事件・事故・トラブルに巻き込まれた時は、全身全霊をあげてそれに取り組む。今まで嘘をついて来なかった、真っ正直に、まともな仕事をしている・・・そう思うと真正面から向き合えるようになります。ごまかしや嘘偽りをせずに、正面から取り組んで100%の力で対応すると、それをきっかけに後の関係が良くなります。

シムックスは今年の8月で40周年を迎えますが、振り返ると、大きな事件・事故・トラブルは会社の一つひとつの年輪になっていると分かります。この事件があったから会社は鍛えられたとか、ものの考え方が良くなったとか、上の人間の考え方が浸透していったのはこの事件があったからだ…という具合です。

もう一つの例は、平成元年に安中市の市民プールで子供さんの水死事故がありました。その時は、シムックスは群馬県全体でひと夏に1万人くらいプールの監視員を出していました。市民プールで子供さんが亡くなったという連絡を受けて、私はすぐに駆けつけました。亡くなった子供さんに手を合わせながら、＜絶対にお客様を死なせてはならない＞＜50年間は墓参りをさせて戴く＞と心に刻みました。事故は結局、市役所も警備会社にも瑕疵はないということでしたが、誰がどう責任をとろうが亡くなった命は返りませんから、毎年命日には墓参りを続けています。社長を交代してからは、社長になる人間は必ず自分で墓参して墓を綺麗にすることを念押ししています。この事故がきっかけとなって、シムックスでは死亡事故は絶対に起こしてはならない！と徹底して教育しています。

大きな事件・事故・トラブルがあると会社は団結し引き締まります。人も同じです。ですから結果的に、事件・事故・トラブルはチャンスだと思っています。そのDNAは会社の中に行き渡っています。

○ 昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方

「有難う」と言われなかったら、反省材料にして下さい。最近、私は月の半分以上は家に帰りますから、家内にお茶を注いだり、味噌汁をよそってあげると「有難う」と言われます。こんなことくらいで有難うと言われるのかと思いますが、若い頃にそうしていれば喧嘩もせずに済んだでしょうね。新婚時代はやってもらうのが当たり前だと思っていました。最近はやってあげるのが当たり前になったら、「有難う」と返って来ることが多いこと多いこと。皆さんはどうでしょうか？ 奥様にやってもらうばかりではいけませんね。

- 昨日一日、健康法を実践した方
- 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージした方
- 昨日、自分磨きをした方

最後にクンバハカの実践をしましょう。肛門をキュッと締めて、肩の力をフッと抜きます。するとお腹に力が入ります。こういう動きが出来るとようございます。難しく考えずに、肛門だけキュッと締めるよう意識して下さい。自然と出来るようになります。2、3年続けていると、これは天風先生が言われる秘法だと納得できると思います。

### 最近、お聞きした話

先日、前橋市歴史文化遺産活用室長の手島仁さんの講演を聞きました。大河ドラマ「花燃ゆ」に登場する初代群馬県令の楫取素彦についてのお話でした。「花燃ゆ」は視聴率が低迷しているようですが、手島さんが大河ドラマの製作プロデューサーとやりとりした裏話が印象的でした。今回の大河ドラマは、吉田松隠を前面に出すには生涯が短すぎる。妹に焦点を当てたけれども、無名だからこれも難しい。あれこれ思案した結果、御覧になった方もおられると思いますが、一話も二話も全部作り話で、三話・四話になって事実が少しずつ入って来る、と言っておられました。事実を事実通りではなくて、事実を嘘をまぶして人を惹きつけるという手法をとっているわけです。テレビで流すと、全て本当のことだと錯覚しますね。

偶然にもその数日後に泊まった赤城温泉ホテルは、楫取素彦が奥さんと宿泊したということでした。女将の話では、新婚旅行で来たそうです。日本で最初に新婚旅行に行ったのは坂本龍馬とお龍だったという話は有名ですが、楫取素彦も新婚旅行に行っていたのですね。回りを見ると、結構隠れた話があるものです。その中から歴史に関係するものを引っ張り出して自分自身の判断基準で見直しをしてみると、自分も磨けるし、自分の足下を見ることが出来ます。

もう一つ、三橋貴明さんという経済評論家の講演を聞く機会がありました。なかなか面白い話でした。今、世界がデフレに陥っている。デフレは、必ず一つのイベントを通り抜

けないとデフレにならない。バブルが崩壊するとデフレが始まる・・・と言っておられました。そして、デフレとは物価が下がりそれより早いペースで給料も下がることだと定義づけされ、日本の国はデフレから脱却はしませんとも言っておられました。日本の国は、これからデフレがもっと進めば物価は下がるでしょうけれど、給料もどんどん減ることになります。

### 金が金を生む時代ではなくなる

本日ご紹介する本は『沈みゆく大国 アメリカ』（堤未果著 集英社新書）です。アメリカで皆保険制度を始めたら、そのおかげでどんどん貧困層が増え、中流階級が総崩れになって来ているという具体的な説明が医療制度の崩壊を焦点にして書いてあります。そういうことを見越している木内信胤先生の本『國の個性』（プレジデント社）も一緒に回覧します。

はっきりしていることは、資本主義の世界が終わって、新しい知足主義に世の中は移りつつある。そういう状況だから、先程の三橋貴明さんのデフレについての話も、アメリカの中産階級がどんどん総崩れになっている状況も納得がいきます。

アメリカでは高額所得層の内、上位 1%の人達が国民所得の 20%を稼ぎ、日本は 10%弱稼ぐと言われていました。日本も今や中間所得層は総崩れになって来ている。私の感覚では、年収 200 万くらいをボーダーラインとして、中間所得者層が雪崩現象をおこしてどんどん低所得層になっていると感じます。格差社会が広がっているとマスコミは盛んに言っていますが、今年の夏から秋口にかけては、「金が金を生む時代ではなくなった」という話が広がっていると思います。お金がお金として機能しなくなっている。だんだんとそれが世の中に広がって来ていると私は考えていますし、お金の代わりになるものが少しずつ見えてくる時代に入ったと感じています。

お金がお金として機能しなくなってくると、どうしても食べ物を確保しておかなければいけません。自給自足を少しでも手をつけておかねばならない時代になったと感じています。300 坪くらいの土地があれば一家四人程度は生きていけると聞きましたので、今、私は家庭菜園を実際にやっています。

前回もお話しましたが、今年はさつま芋作りに取り組むつもりで、さつま芋資料館元館長の井上浩先生に家庭菜園に来て戴いて指導して戴きました。井上先生は終戦直後の食糧危機を身をもって体験し、さつま芋のおかげで命を存えることが出来た世代として、さつま芋の普及に尽くしたいと活動しておられます。井上先生によると、群馬県はさつま芋

栽培の北限の地だそうです。あまり知られていませんが、群馬県はさつま芋の苗を全国に出荷しているのだそうです。また、食糧危機のためにさつま芋の栽培に力を入れている市町村（掛川市や名古屋市北区など）や会社（NTTファシリティーズ）を教えて戴きました。私は陽明学を標榜しておりますので、視察に行こうと思っています。

とにかく今年は、300坪でどの程度のさつま芋が出来るか実験しようと思っています。それが上手くいったら、皆さんが自宅やベランダで自分で自分の命を繋ぐためのさつま芋作りを広めたいと考えていますし、私は関係する1万人分くらいの方達の為にさつま芋を作る仕組みづくりをしたいと思っています。また、作った芋をどうやって消費するかも考えなければいけません。今年はやらなければならないことが沢山あります。

さつま芋作りの良い点は、「足るを知る」という考え方を身体で体験できる、「ほどほどに」が身に付きます。知足の実践活動です。

では論語の解説を致します。本日は子路篇十六～十八です。

【一六】葉公<sup>しょうこう</sup> 政<sup>まつりごと</sup>を問う。子曰く、近き者<sup>ちかもの</sup> 説ぶときは、遠き者<sup>とほもの</sup> 来ると。

この時、孔子は60歳を過ぎています。葉公は楚の国の葉県の長官です。

葉公が孔子に、政治の要諦は何かと聞きました。

孔子が答えました。「近在の者が今の政治は良いと喜んでくれる。その話がだんだん遠くへ広がって行けば、遠方から住みたいと人が集まってくる。そのようにしたら如何ですか。」

ふるさと納税で長崎県平戸市が第一位になりました。そこに住んでいる人達の住民税よりも、ふるさと納税で集まった税金の方が多いうのですから驚きます。調べてみると、なるほど納税したくなるような仕組みで、大分知恵を絞ってがんばっているなと思います。「近き者説ぶときは、遠き者来ると」と同じことだと思います。近在の人が喜ぶような政治をすれば、良い話はザーッと遠くに広がっていきますから、まず足元を固めなさいということ。

【一七】子夏<sup>しか</sup> 莒父の宰と為り、政<sup>まつりごと</sup>を問う。子曰く、速かなるを欲すること無かれ。小利<sup>しょうり</sup>を見ること無かれ。速かなるを欲すれば、則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らずと。

子夏は二十代、とても若い孔子のお弟子さんです。

子夏が莒父という魯の国の辺境の地の城主になり、孔子に政治の要諦は何か教えを請いました。

孔子が答えました。「急ぐな。目先の利益を追いかけずに長い眼で見なさい。焦るとゴールに到達できない。小さな利益を追いかけると、大きな仕事は成功しない。」

【一八】葉公 孔子に語<sup>し</sup>て曰<sup>く</sup>、吾<sup>が</sup>党<sup>に</sup>直<sup>躬</sup>と<sup>い</sup>う者<sup>有</sup>り。其<sup>の</sup>父<sup>羊</sup>を攘<sup>み</sup>て、子<sup>之</sup>を証<sup>す</sup>と。孔子曰<sup>く</sup>、吾<sup>が</sup>党<sup>の</sup>直<sup>き</sup>者<sup>は</sup>是<sup>に</sup>異<sup>な</sup>り、父<sup>は</sup>子<sup>の</sup>為<sup>に</sup>隠<sup>し</sup>、子<sup>は</sup>父<sup>の</sup>為<sup>に</sup>隠<sup>す</sup>。直<sup>き</sup>こと其<sup>の</sup>中<sup>に</sup>在<sup>り</sup>と。

葉公が孔子に「私の仲間に直躬という正直者がいます。父親が羊を盗んだ時に、息子である躬が訴え出ました。実に正直な男です」と語った。

孔子が言いました。「私の仲間の正直者は、あなたの考える正直者とは違います。父親は子供が悪いことをしたら隠そうとするし、子供は親が不正をしたら庇うでしょう。そのような場合、見かけは不正直であっても、その中に本当の正直があるのです。」

論語を読む時は現代に置きかえて読んで下さい。

今日の論語は皆、政治の話です。私は前から、政治家の二枚舌はいけないと話をしていきます。日本の政治家の中で最大の二枚舌は佐藤栄作元首相だ、という新聞記事を読んだことがあります。佐藤栄作元首相は「日本は核を持たず・作らず・持ち込ませず」と明言しながら、水面下で核武装したいとアメリカと交渉していました。アメリカに断られると、今度はドイツと一緒に核の開発をしませんかと持ちかけて、やはり断られた。国内では非核三原則を強調しながら、水面下でアヒルの水かきをしていた。それは、先々日本は核武装しなければならない国だと踏んでいるからで、断られたので仕方なく核を諦めたわけです。これは二枚舌の最たるものだと紹介されていました。ただ、政治家はどうしても二枚舌を使わなければならない時があるのだろうなという気は致します。

日本の国の中ではどうも政治と宗教の話はタブーになっています。しかし私はタブーもどんどん取っ払っていく必要があるのではないかという気が致します。宗教の話しも、例えば「ダライラマの生涯」というようにぶつけていくのであれば宗教の話しではなくなっています。仏教も宗教ではなく、哲学と考えれば良いのです。以前、仏教の権威で唯識学の本を書かれておられる横山紘一先生とお話をした時に、「仏教は宗教だと思っている方があまりにも多いけれど、仏教は哲学です」と断言しておられました。仏教はもともと苦しみから逃れることを目的として作られた考え方ですから、「悟り」について研究をしていく哲

学です。そして中斎塾フォーラムの基本哲学の「足るを知る」は「悟り」です。悟ったということは、「足るを知る」が肚に落ちたということになります。ですから、だんだん宗教に関する話もタブーでなくしていけばよいと私は思っています。政治の話も同じで、タブーがあってはおかしいと思います。タブーの中にも突っ込んでいって、それは良いとか悪いとか自分自身で判断する判断基準を持っていなければいけません。

## 時事評論

お時間が参りましたので、さっと、今日の新聞から気になった記事を申します。

○20日の国会論戦から

民主党の前原さんと安倍首相のやり取りをみると、まるっきりかみ合っていません。

○NHK受信料義務化に向けた法改正について

NHKがテレビを持っていない家庭からも受信料を徴収しようとするという動きが進んでいます。スマホやパソコンを持っていれば当然テレビが見られるのだから徴収すべきだということですが、どうも時代に逆行しているものがあると感じます。新聞はそれに対してYES・NOでなく、ぼやかした形で書いています。

○安倍首相と黒田総裁の経済財政諮問会議でのやりとりについて

「黒田総裁は珍しく自ら発言を求め、財政の信認が揺らげば将来的に金利急騰リスクがあると首相に直言した」と関係者が発言してにもかかわらず、5日後に公開された議事録では発言の大半が消えていた。会議での具体的なやりとりはオフレコの部分があったとか、財政再建についてはしっかり議論していくべきだという曖昧な表現に変わっていた、と記事には書かれています。

やり取りしたものがどんどん見えなくなっていくのでは、何のための新聞でしょうか。そう感じる記事が、最近多くなっています。チョロっと書いてある記事の中に、必要なものがまぶしてある。ですから新聞を見る時には、大きな見出しをあまり気にせずに、小さくチョロっと付言してあるような記事を意識してチェックするような習慣をつけておくと、自分の引き出しに入っている他のものと融合出来ます。そうすると、はっと気づくことになります。自分自身の仕事や生涯に関係する情報が、小さな記事の中に結構混ざっています。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。